

令和7年度香川県がん患者ニーズ調査票

香川県のがん対策の推進のために、
皆さまのご意見をお聞かせください。

① このアンケート用紙に記入して提出

② WEB フォームから提出 →



どちらでもご回答をいただけます。

(ご回答は回答用紙かWEB フォームのどちらか1回で結構です。)



 香 川 県

調査担当課：香川県健康福祉部健康政策課

この調査について

- このアンケートは、香川県が各病院の協力を得て、概ね3年に1回程度実施しています。結果は、香川県のがん対策を向上させるための資料といたしますので、ご回答にご協力をお願いします。
- アンケートの回答は自由ですので、回答しないことで不利益が生じることは一切ありません。
- アンケートに個人を特定する情報や、住所・氏名等を記入する必要はありません。また、病院関係者が記入された回答を見ることはありません。
- 質問は、問1から問45まであります。(回答の目安時間は約20分程度です。)
- 患者様が幼少・高齢などの理由により、ご本人が回答・記入することが難しい場合は、ご家族の方などが代わりに回答・記入しても構いません。
- 答えにくい質問や不快に思った質問がある場合は、その質問に無理にご回答いただく必要はありません。お答えいただける質問にのみ、ご回答ください。
- ご回答はこちらの回答用紙または、WEBフォームからご回答ください。

(ご回答は回答用紙かWEBフォームのどちらか1回で結構です。)

WEBフォームの方はこちらから→

(香川県電子申請・届出システム)



ご協力のほど、よろしくお願いします

調査への同意の確認等について

・この調査票を記入している日を記載してください。

(和暦・西暦のどちらで記載いただいても結構です。)

()年()月()日

・この調査票をどこで受け取りましたか。(○は1つ)

- a. 香川大学医学部附属病院
- b. 香川県立中央病院
- c. 高松赤十字病院
- d. 香川労災病院
- e. 三豊総合病院
- f. 四国こどもとおとなの医療センター
- g. 高松市立みんなの病院

・冒頭の説明事項を読み、この調査に参加することに同意しますか。(○は1つ)

- a. 同意します ➡ 次のページからの質問へお進みください。
- b. 同意しません ➡ 調査は終了です。ありがとうございました。
回答用封筒に入れて、アンケートを受け取った、
相談支援センター等の窓口へ提出してください。

問1. この調査票を記入している方はどなたですか。(○は1つ)

- a. 患者さんご本人
- b. 患者さんのご家族
- c. その他()←ご関係等を記入ください

以降の問いは、患者さんご本人についてお伺いします
患者さんご本人以外の方が記入する場合も、患者さんについて、お答えください

問2. 性別をお答えください。(○は1つ)

- a. 男性
- b. 女性
- c. 回答しない

問3. 患者さんの現在の年齢をお答えください。

()歳

問4. 現在、入院中か通院中かをお答えください。(○は1つ)

- a. 入院中
- b. 通院中

問5. ご自宅から病院までの片道の所要時間はどのくらいですか。(○は1つ)

- a. 30分未満
- b. 30分以上1時間未満
- c. 1時間以上2時間未満
- d. 2時間以上

問6. ご自宅で同居されている方を教えてください。(当てはまるものすべてに○)

- a. いない(ひとり暮らし)
- b. 配偶者・パートナー
- c. 子ども
- d. 親
- e. その他()←ご関係等を記入ください

問10. 最初のがんの診断・告知の際、医師から、どなたに病名を告げられましたか。(○は1つ)

- a. 患者さんご本人のみ
- b. 本人と家族ともに
- c. 家族のみ
- d. その他()

問11. がんと診断・告知されてから治療を始める前の間に、病気のことや療養生活に関して誰かに相談することができましたか。(a から c のうち1つに○)

- a. 相談を必要としなかった
- b. 相談が必要だったが、できなかった
➔ 相談できなかった理由を自由に記入してください。
- c. 相談できた
↳ どなたに相談できましたか。(当てはまるものすべてに○)
 - c1. 主治医
 - c2. 家族・親戚
 - c3. 友人・知人(がん患者以外)
 - c4. 友人・知人(がん患者)
 - c5. 主治医以外の医師
 - c6. 看護師
 - c7. 心理士
 - c8. ソーシャルワーカー
 - c9. 薬剤師
 - c10. 患者会やピア・サポーター※
 - c11. がん相談支援センター
 - c12. 県や市町村の相談窓口
 - c13. その他 ()

※ピア・サポーター:がん体験者やその家族がピア(仲間)として、体験や悩みを共有し、ともに考えることで、患者や家族等を支援する(ピア・サポート)役割を担う人。

ここからは、がんの治療についてお尋ねします

問12. これまで受けたがん治療についてお答えください。2種類以上のがんについて治療された場合には、直近のがん治療についてお答えください。(当てはまるものすべてに○)

- a. 手術(内視鏡治療を含む)
- b. 化学療法(分子標的薬、免疫療法を含む)
- c. 放射線治療(陽子線治療、重粒子線治療を含む)
- d. 造血細胞移植(同種移植、自家移植を含む)
- e. ホルモン療法
- f. 緩和ケア※
- g. その他()
- h. わからない

※緩和ケア:病気の進行具合にかかわらず、患者やその家族が抱える様々なつらさを和らげ、療養生活の質を維持向上するための治療やケア、援助などをいいます。

問13. がんと診断されて以降、どのような情報が欲しかったですか。(当てはまるものすべてに○)

- a. 主治医の説明だけで十分だったので、追加で情報は欲しいと思わなかった
- b. 自分のがんの標準的な治療の方法(手術、化学療法など)
- c. 自分のがんの一般的な治療成績(5年生存率など)
- d. 近くの病院の治療実績(手術件数、患者数、専門医数など)
- e. 免疫療法、ゲノム医療、陽子線・重粒子線治療など先進医療が受けられるか
- f. 治療による副作用(脱毛、吐き気、生殖機能の低下など)
- g. 経済的負担がどれくらいになるか
- h. 仕事や学業との両立支援について
- i. 介護や育児との両立支援について
- j. その他()

問13-②. 問13で「a. 主治医の説明だけで十分だった～」以外を選択した方にお聞きします。十分な情報を得ることができたと思いますか。(○は1つ)

- a. とてもそう思う
- b. ある程度そう思う
- c. どちらともいえない
- d. あまりそう思わない
- e. まったくそう思わない

問14.がんと診断されてから「がんの治療」を決めるまでの間に、主治医から治療に関する十分な情報を得ることができたと思いますか。(○は1つ)

- a. とてもそう思う
- b. ある程度そう思う
- c. どちらともいえない
- d. あまりそう思わない
- e. まったくそう思わない

問15. セカンドオピニオン※を受けたことがありますか。(a か b をお選びください)

※セカンドオピニオン:診断・治療に関して、現在診療を行っている医師とは別の医療機関の医師の意見を聞くこと。

- a. ある
- b. ない
 - ↳ 受けなかった理由を教えてください。(○は1つ)
 - b1. 主治医から話があり、主治医の説明だけで納得できたため
 - b2. 主治医から話はあったが、経済的な負担が気になったため
 - b3. 主治医から話はあったが、主治医との関係が悪くなると心配したため
 - b4. 主治医から話はあったが、その他の理由
()
 - b5. 主治医から話がなかったので、セカンドオピニオンを知っていたが、言
い出せなかった
 - b6. 主治医から話がなかった。セカンドオピニオンを知らなかった
 - b7. その他()

問16. これまでに受けた治療について、納得していますか。(○は1つ)

- a. とてもそう思う
- b. ある程度そう思う
- c. どちらともいえない
- d. あまりそう思わない
- e. まったくそう思わない

問17. がんと診断されて以降、どこから情報を集めましたか。(最も当てはまるもの上位3つに○)

- a. 主治医の説明だけで十分だったので、追加で情報収集はしなかった
- b. インターネット
- c. 家族・親戚
- d. 友人・知人(がん患者以外)
- e. 友人・知人(がん患者やがん治療経験者)
- f. 患者会やピア・サポーター
- g. 主治医以外の医師や看護師など医療関係者
- h. 病院内に置かれているパンフレットやチラシ
- i. 病院以外の施設(役場など)に置かれているパンフレットやチラシ
- j. 「香川県がん患者必携 地域の療養情報」の冊子
- k. がん相談支援センター
- l. 加入している保険会社の担当者
- m. 書籍
- n. テレビ
- o. セカンドオピニオン外来
- p. その他 ()

問18. これまでに、患者会やピア・サポート※を利用したことがありますか。

(a から c のうち1つに○)

※ピア・サポート:がん体験者や、その家族がピア(仲間)として、患者や家族等と体験や悩みを共有し、ともに考え支えあう支援のこと。

- a. 患者会やピア・サポートについて知らない
- b. 患者会やピア・サポートについて知っているが、利用したことはない
- c. 利用したことがある
 - ↳ 患者会やピア・サポートを利用して役に立ちましたか。(○は1つ)
 - c1. とても役に立った
 - c2. ある程度役に立った
 - c3. どちらともいえない
 - c4. あまり役に立たなかった
 - c5. まったく役に立たなかった

➔ 患者会やピア・サポートを利用して、どのような点が役に立った(または、役に立たなかった)など自由に記入してください。

問19. 病名告知や病状・治療方針の説明の際、主治医や医療スタッフから、精神的なショックをなるべく和らげるような、患者の立場に立った配慮を感じられましたか。(○は1つ)

- a. かなり感じられた
- b. ある程度感じられた
- c. あまり感じられなかった
- d. ほとんど感じられなかった
- e. 覚えていない
- f. わからない

➔ 配慮としてよかった点、足りないと感じた点を自由に記入してください。

問20. この用紙を受け取った病院以外で「かかりつけ医」はいますか。(a か b の1つに○)

- a. いない
- b. いる
 - ↳ かかりつけ医に、がんの病状や治療について話すことはありますか。(○は1つ)
 - b1. 話すことはない
 - b2. 病状や治療の報告のみ
 - b3. 症状やがん治療の副作用など困ったことに対応してもらっている
 - b4. 病院の担当医と連携して、がん治療自体をかかりつけ医で受けている

問21. この用紙を受け取った病院以外で「かかりつけ歯科医師」はいますか。(a か b の1つに○)

- a. いない
- b. いる
 - ↳ かかりつけ歯科医師に、がんの病状や治療について話すことはありますか。(○は1つ)
 - b1. 話すことはない
 - b2. 病状や治療の報告のみ
 - b3. 症状やがん治療の副作用(口内炎、味覚障害など)など困ったことに対応してもらっている
 - b4. 病院の担当医と連携して、がん治療をするために必要な歯科治療(虫歯や動揺歯、歯周病の治療)をかかりつけ歯科医師から受けている

ここからは、がん治療の諸問題についてお尋ねします。
年齢、性別に関係なく、すべての方がお答えください。

一部のがん治療は、生殖機能(妊よう性[※])に影響があります。治療前に、将来、子どもを持ちたいと希望する場合には、臓器や機能を残すための方法を検討できる場合があります。

※妊よう性:子どもをつくるのに必要な機能のこと

問22. 最初のがん治療が開始される前に医師からその治療による生殖機能(妊よう性)への影響について説明を受けましたか。(a からdのうち1つに○)

- a. 説明はされておらず、説明を必要としてもいなかった
- b. 説明を必要としていたが、説明はされなかった
- c. 説明があった
 - ↳ どのような説明でしたか。(○は1つ)
 - c1. 生殖機能への影響はない、という説明を受けた
 - c2. 生殖機能への影響があり、具体的な予防・温存の方法まで説明があった
 - c3. 生殖機能への影響がある、という説明はあったが、予防・温存の具体的方法までは説明がなかった
 - c4. 生殖機能への影響があるが、予防・温存の方法は存在しないと説明があった
 - c5. 生殖機能への影響がある、という説明はあったが、治療上の緊急性の観点から、治療を優先するべきと説明があった
- d. わからない

問23. 香川県ではがん等の治療の影響により生殖機能が低下する、または失うおそれがあると診断された43歳未満の患者の方の妊よう性温存の治療費を一部助成する事業を行っています。この制度は、妊よう性温存治療を受ける上で必要だと思いますか。(○は1つ)

- a. とてもそう思う
- b. ある程度そう思う
- c. どちらともいえない
- d. あまりそう思わない
- e. まったくそう思わない

問24. 香川県では、がん患者の方に対し、治療による脱毛や乳房切除などの外見変貌を補完する補整具の購入費用を一部助成する事業行っています。この制度は患者の心理的負担の軽減や、治療と社会生活の両立を図る上で必要だと思いますか。(○は1つ)

- a. とてもそう思う
- b. ある程度そう思う
- c. どちらともいえない
- d. あまりそう思わない
- e. まったくそう思わない

問25. がんの治療のために使ったお金は、多い月でどの程度ですか。

医療費(がんの治療のために実際に病院に支払った額)
1か月あたり()万円程度

医療費以外(交通費、栄養補助食品代など)
1か月あたり()万円程度

問26. 治療費用の負担が原因で、がんの治療を変更・断念したことがありますか。

(aかbのうち1つに○)

- a. ない
- b. ある
 - ↳ 治療費用負担の問題が無ければ受けた可能性のある治療は次のどれですか。(○は1つ)
 - b1. 保険診療範囲内での治療
 - b2. 保険診療範囲外の治療(先進医療を含む)
 - b3. わからない

問27. 治療や療養生活の経済的負担を軽減するために利用したものについて、お答えください。

(当てはまるものすべてに○)

- a. 小児慢性特定疾病医療費助成
- b. 特別児童扶養手当
- c. 障害児福祉手当
- d. 自立支援医療制度(育成医療)
- e. 乳幼児等に係る医療費の援助(各市町が実施する乳幼児等に対する医療費の援助)
- f. 高額療養費制度
- g. 傷病手当金
- h. 生活福祉資金貸付制度
- i. 生命保険・民間医療保険
- j. 障害年金・障害手当金
- k. 障害者手帳
- l. 妊よう性温存治療費助成
- m. 医療用補整具(ウィッグ、胸部補整下着、人工乳房等)助成
- n. その他 ()
- o. 上記のものは利用していない



問28. がん相談支援センター※を利用したことがありますか。(a からcのうち1つに○)

※がん相談支援センター:病院の中に設置されている、がんに関する相談窓口。病院によっては「地域医療連携室」「患者サポートセンター」などの名称が併記されていることがあります。

<p>a. がん相談支援センターを知らない</p> <p>b. がん相談支援センターを知っているが、利用したことはない</p> <p>↳ 利用しなかった理由を教えてください。(当てはまるものすべてに○)</p> <p>b1. 必要としていたときには知らなかった</p> <p>b2. 相談したいことはなかった</p> <p>b3. 何を相談する場なのかわからなかった</p> <p>b4. プライバシーの観点から行きづらかった</p> <p>b5. 相談を受け止めてもらえるか自信がなかった</p> <p>b6. 他の患者の方の目が気になった</p> <p>b7. その他()</p> <p>c. 利用したことがある</p> <p>↳ がん相談支援センターを利用して役に立ったと思いますか。(○は1つ)</p> <p>c1. とてもそう思う</p> <p>c2. ある程度そう思う</p> <p>c3. どちらともいえない</p> <p>c4. あまりそう思わない</p> <p>c5. まったくそう思わない</p> <p>➔ そのように感じた理由を自由に記入してください。</p> <p>[]</p>

問29. がん治療中の様々な困ったことについて、専門的な緩和ケア部門(緩和ケア外来や緩和ケアチーム)に相談したことはありますか。(a か b の1つに○)

a. ない

↳ 相談しなかった理由を教えてください。(○は1つ)

a1. 主治医やその他の担当医療者の対応だけで十分だった

a2. そのような部門を知らなかった

a3. 相談したかったができなかった

b. ある

↳ 満足のいく対応でしたか。(○は1つ)

b1. とても満足した

b2. 少し満足した

b3. どちらでもない

b4. 少し不満だった

b5. とても不満だった

➔ そのように感じた理由を自由に記入してください。

[]

問30. 療養生活を自宅で過ごすためには、どのような条件が必要だと思えますか。
(最も当てはまるもの上位3つに○)

a. 介護してくれる家族がいること

b. 家族に病気や介護の知識があること

c. 家族に負担があまりかからないこと

d. 家族に理解があること

e. 家族の介護疲れなどの際に一時的に病院に入院できること

f. 自宅が介護できる住居構造になっていること

g. 自宅に往診してくれる医師がいること

h. 急変時の医療体制があること

i. 訪問看護など自宅に看護師等が来て看護が受けられること

j. 訪問介護など自宅に介護員等が来て介護が受けられること

k. 訪問リハビリなど自宅に理学療法士・作業療法士等が来てリハビリが受けられること

l. 車いすやベッドなどの福祉用具がそろっていること

m. 信頼できるケアマネジャーがいること

n. 在宅療養に関する相談先があること

o. その他()

問31. がんと確定診断されたとき、就学または就労していましたか。(○は1つ)

- | | |
|---------------------|---------------------|
| a. 就学していた | ➡(問32～問36にお進みください。) |
| b. 就労(収入のある仕事を)していた | ➡(問37～問42にお進みください。) |
| c. 就学も就労もしていなかった | ➡(問43にお進みください。) |
| d. わからない | ➡(問43にお進みください。) |

ここからは、問31で「a. 就学していた」と答えた方に、お尋ねします

問32. がんと診断された時の、就学状況についてお答えください。(○は1つ)

- | |
|----------------|
| a. 小学校 |
| b. 中学校 |
| c. 高等学校 |
| d. 特別支援学校 |
| e. 大学(短期大学を含む) |
| f. その他() |

問33. 治療を始める前に教育の支援等について、病院の医療スタッフから説明がありましたか。
(○は1つ)

- | |
|-------------------------|
| a. 説明はなく、説明を必要としてもいなかった |
| b. 説明を必要としていたが、説明はなかった |
| c. 説明があった |
| d. わからない |

問34. 学校や教育上の関係者と医療者が連携して、治療と教育を両方続けられるような配慮を感じられましたか。(○は1つ)

- | |
|---------------|
| a. とてもそう思う |
| b. ある程度そう思う |
| c. どちらともいえない |
| d. あまりそう思わない |
| e. まったくそう思わない |

問35. 診断後の就学状況はどうでしたか。(a からcのうち1つに○)

- a. 治療前と同じ学校に通学している
- b. 治療のため、院内学級のある病院や特別支援学校等に転校した
 - ↳ 治療中に利用したものについてお答えください。
(当てはまるものすべてに○)
 - b1. 原籍校の教員が病院や自宅等に来て授業を受けた
 - b2. 病院内等に設置された特別支援学級(病室への訪問を含む)で授業を受けた
 - b3. ICT 機器などを活用し、遠隔で授業を受けた
 - b4. 学習支援員やボランティアによる支援等で対面での学習支援を受けた
 - b5. 原籍校で録画された授業の視聴や原籍校からの課題や補習を受けた
 - b6. 家庭教師などを病院へ派遣し、学習した
 - b7. 利用したものはない
 - b8. その他()
- c. 就学猶予、就学免除または休学中である

問36. 治療と教育を両立するために必要性を感じた(感じている)ものについて、自由に記入してください。

➡ 次は、問43にお進みください。



ここからは、問31で「b. 就労していた」と答えた方にお尋ねします

問37. がんと確定診断された当時の就業形態についてお答えください。(○は1つ)

- a. 正規の職員・従業員
- b. パート・アルバイト
- c. 個人事業主(自家営業の手伝い、農業・漁業従事も含む)
- d. 契約職員・委託職員
- e. 派遣職員
- f. 会社の役員
- g. その他()

問38. 治療を始める前に就労の継続について、病院の医療スタッフから説明がありましたか。
(○は1つ)

- a. 説明はなく、説明を必要としてもいなかった
- b. 説明を必要としていたが、説明はなかった
- c. 説明があった
- d. わからない

問39. 治療を継続するに当たって勤務先の支援を受けられましたか。(○は1つ)

- a. 手厚い支援を受けた
- b. それなりの支援を受けた
- c. ほとんど支援は受けられなかった
- d. 支援どころかマイナスになった(退職を思わせるような話や待遇の変更など)
- e. 勤務先には、がんと診断されたことを話さなかった
- f. その他()



あと、5問ぐらいです。

問40. 治療と仕事を両立するために必要性を感じた(感じている)ものについて、お答えください。

(当てはまるものすべてに○)

- a. 治療と仕事の両立の相談窓口
- b. 時間単位、半日単位の休暇制度(定期的・不定期に取得する休暇)
- c. 時差出勤(長さは所定の労働時間で出勤をずらす)
- d. 短時間勤務制度(所定労働時間を一定期間、短縮する制度)
- e. 在宅勤務(テレワーク、リモートワーク)
- f. 試し出勤(長期間休業していた者に対し、復職時に一定期間、時間や日数を短縮した勤務を行うこと)
- g. その他()

問41. 治療開始前と開始後1年後の月収がどのように変化したか、教えてください。

治療開始前を100として → 開始1年後 ()程度*

※月収が増えた場合は100より大きい数字、減った場合は100より小さい数字で記入
例) 半分に減った → 「50」、以前と変わらない → 「100」

問42. がんと診断された後の仕事の状況についてお答えください。(a から e のうち1つに○)

- a. 治療前と同様の仕事を継続した
- b. 内容や量を調整して、同じ職場で仕事を継続した
- c. 休職・休業はしたが、転職・退職または転業・廃業はしなかった
↳ その後、どのようにされましたか。(○は1つ)
 - c1. (少なくとも一度は)復職した
 - c2. (一度も)復職していない
- d. 自主的に転職・退職または転業・廃業した
↳ その後、どのようにされましたか。(○は1つ)
 - d1. 再就職・復業した
 - d2. 再就職・復業の希望はあるが、現時点では無職
 - d3. 再就職・復業の希望はない
- e. 勤務先から転職・退職を余儀なくされた
↳ その後、どのようにされましたか。(○は1つ)
 - e1. 再就職・復業した
 - e2. 再就職・復業の希望はあるが、現時点では無職
 - e3. 再就職・復業の希望はない

問43. がん患者やその家族の悩みや負担を相談できる支援・サービス・場所は十分あると思いますか。(○は1つ)

- a. とてもそう思う
- b. ある程度そう思う
- c. どちらともいえない
- d. あまりそう思わない
- e. まったくそう思わない

→悩みや負担を相談するためには、どのような支援・サービス・場所があればよいかなど、ご意見があれば記入してください。

問44. がん対策について、県はどのようなことに力を入れるべきだと思いますか。
(最も当てはまるもの上位3つに○)

- a. がんの発症予防(生活習慣の改善など)
- b. がんの早期発見(がん検診の受診率向上など)
- c. がん医療提供体制の充実(医療機関の整備など)
- d. 緩和ケアの推進
- e. 相談支援・情報提供体制の充実
- f. 在宅医療・在宅療養体制の充実
- g. 患者の就労や就学に関する支援
- h. がん医療従事者の育成
- i. その他()
- j. 特にない

問45. 療養生活を続ける中で、よかった・悪かったと感じた出来事、各質問へのご意見、行政に対するご要望、その他気づかれた点などをご自由に記入してください。

質問は以上です。ご協力ありがとうございました。

